

# 市民ネットワーク Vol.57 街づくり通信

鎌取駅にて  
福谷章子



福谷章子HP <http://fukutani.blog.ocn.ne.jp/blog/>

川本幸立HP <http://www.k5.dion.ne.jp/~kawamoto/>



尼崎市視察時の  
川本幸立

発行：市民ネットワーク 川本幸立  
編集：市民ネットワーク・みどり  
〒266-0031  
千葉市緑区おゆみ野 3-40-8  
河野ビル 101号  
Tel&Fax：043-293-8011  
E-mail：midori@chibanet.jp

## 子どもの参画

### なぜ子どもの参画か？

少子化対策とは子どもの数を増やすことではなく、幸せな子どもを増やすこと。幸せな子どもとは？そのためにはどんな力が必要？お客様ではなく、まちづくりの仲間として必要とされているという実感と、子どもにとって信頼できる大人の存在が子どもの力を育てます。キーワードは参画。この夏、子ども交流館（きぼーる）で繰り広げられた取り組みを通して、子どもの参画を進めるための施策について考えます。

高度経済成長時代には、組織の中の歯車となることが効率を高める一つの方法でした。疑問があっても異議申し立ては流れを止めるため、個人の主張はできるだけ抑えるような風潮が社会全体にトップダウンでできています。見て見ぬふりの同調社会の限界が、あちらこちらに表れている、その閉塞感は頂点に達しているように思えます。

日本の子どもたちは世界の中でも自己肯定感が低く、孤独を感じている割合が高いという調査結果があり、今や引きこもりは130万人とも言われているのですが、本来子どもたちは、おかしいこととおかしいと言える力を持っています。「王さまは裸だ！」と言ったのは子どもでした。そんな次世代の潜在力を引き出すことが、子どもたちにとっても社会にとっても、今こそ必要です。

### 計画づくりと子どもの声を

『夢はぐくむちば子どもプラン』という子育て支援策があり、現在、今後5年間の計画づくりを行っています。従来の千葉市の計画は、現状の施策に数値目標を加えて並べるというのがほとんどでした。これでは社会経済状況に対応して現状を乗り越えるものにはなりません。そこで、子どもたちに大いに関わるこのプランにこそ、子どもの声をしっかり反映させていこうという取り組みが始まっています。



計画づくりのために、5回のワークショップが、きぼーるの子ども交流館で行われました。ここで、子どもたちは『夢はぐくむちば子どもプラン』を読み込み、自分自身のことから周囲の状況、社会状況について考え、作業を通して具体的な提案を考え、「提言」としてまとめました。この場をファシリテーター（注）として仕切ったのは、子ども環境学会の大人たちですが、子どもの参画を進めるためには、ファシリテーション能力をもった大人が不可欠です。

8月1日にはこの提言をもとにして、10人の子どもと市長とのミニシンポジウムが行われ、子どもたちからは目からウロコの発言がいくつも飛び出しました。こんな機会は今までにないことで、熊谷市長だからこそ実現した画期的なことでしたが、重要なのはこれらの提案を聞きっぱなしで終わらせないこと。そして、大人の都合の良い取り上げ方をしないことです。そのための仕組み作りが、求められます。

8月12日に開催された社会福祉審議会の児童福祉専門分科会に、千葉市はワークショップに参加していた高校生2人を臨時委員として正式に委嘱しました。このような公式な発言の場で責任を果たす機会を保障することによって、社会とつながっていくことの手ごたえを子どもたちは感じるはずで、また審議会にとっても新たな視点で議論の幅が広がります。

議会制民主主義のルールを学ぶ場として、中学生議会があります。今年、大人の都合で中止になりましたが、そこでの提案が具体的にどんなふうに取り上げられてきたかや、中学生議員の代表制（選び方や他の子どもたちへの周知）など、今までの課題もあります。この機会に、千葉市における子どもの意見を代表する会議として従来の中学生議会を『子ども会議』として位置づけ直し、フィールドワークと結び付けていくような取り組みが必要ではないかと思えます。

## 子どもたちのフィールドの課題

夏休み中、いくつかの公共施設のロビーの片隅では、座り込んでゲームに熱中する子どもたちの輪を見かけました。子どものフィールドは、バーチャルな世界になっていくのではないかとという危機感と、こんな場所しか子どもたちに準備できない千葉市の現状を改めて考えました。子どもたちがいきいきと活躍できるフィールドを作っていくことは、今後の千葉市の重要な役割ではないでしょうか。たとえば、今年度、きぼーるの子ども交流館を拠点として、子どもたちが主体的にまちをつくる「子どものまち」の取り組みが進んでいます。ここで子どもたちはさまざまな社会の仕組みを学び、人とのかわりを体験しています。こんな場を、保障していくことも大切です。

## 今こそ「子ども宣言」を！

『夢はぐくむちば子どもプラン』の後期計画策定を機会に緒についた、子どもの政策づくりへの参画。そして、4月と8月の2回にわたって開催された「子どものまち」の取り組みを通して、子どもたちは着実に社会的な力を蓄えていきました。一人でも多くの千葉市の子どもたちに、こういった体験をしてもらいたい、切に願います。子どもたちとともに地域づくりを進め、より良い社会を築いていくという千葉市としての姿勢を示すためにも、今こそ「子ども宣言」を發しましょう！

子どもの参画については、ブログ「福谷章子のまちづくり」で、さらに詳しく報告しています。  
<http://fukutani.blog.ocn.ne.jp/blog/cat10374389/index.html>



子どもたちと熊谷市長とのミニシンポジウム（8月1日）

**注** ファシリテーター（促進者）  
参加者の心の動きや状況を見ながらプログラムを進め、参加者の本来的な学びを促進して体験を次のステップへと結びつける。

## ムクドリのその後

（8月23日現在）

『ムクドリ学習会』報告後、鎌取駅周辺に飛来するムクドリの観察をしてきました。

5月初旬	集団飛来始まる
6月23～25日	区役所による『追い出し作戦』→区役所周辺からは姿を消す
7月初旬	区役所周辺に集団飛来
8月19～21日	第2回『追い出し作戦』→区役所周辺から大半は姿を消す

6月の追い出し作戦後は、10日～2週間以内に戻ってきています。今回、8月22日の夜には『追い出し作戦』前と変わらないぐらいの数が戻ってきています。追い出しても戻ってくる、他へ移動するでは、抜本的な対策にはならないと思います。そのうえ、常緑樹や人工物をねぐらにすれば周年で住みつくこともあるそうです。共存に成功している所もあります。羽根があり、遠くまで飛んでいく生き物ですから、鎌取駅前、緑区だけでなく、千葉市全体あるいは近隣の市町村と足並みを揃えての対策が必要かと思えます。

〇〇に集まっている、困っているなどなど、市民ネットワーク・みどりムクドリについての情報をお寄せください。（293-8011）

E.S.